

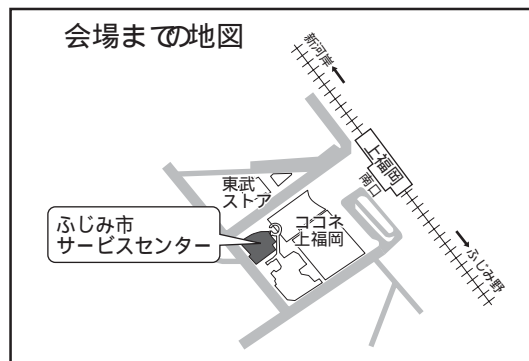
Information

イベントカレンダー

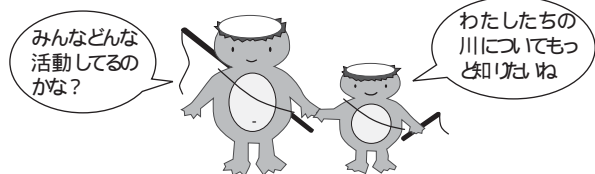
■ 第3回 川でつながる発表会

新河岸川流域では、総合治水対策や川づくり、水循環を1つの河川で考えるのではなく、支川やその流域の地域づくりも含めた流域全体で考えることに取り組んでいます。その一環として「新河岸川流域川づくり連絡会」では、川づくりについて市民団体と流域住民の意見交換や交流の場の創出を目指し、流域内の学生による、川や水、環境を対象にした様々な学習・研究、ボランティア等の活動成果を発表する「川でつながる発表会」を開催します！

- ・日時：2月12日（月・祝）
- ・場所：ふじみ野市立サービスセンターホール 2F多目的ホール
ふじみ野市霞ヶ丘1-2-7
TEL 049-261-0353
- ・内容：川、水、環境に関する活動、学習、研究等の取組みについて
- ・お申込み：聴講の参加は自由。
- ・アクセス：東武東上線 上福岡駅南口より徒歩1分
- ・主催：新河岸川流域川づくり連絡会
（国土交通省荒川下流河川事務所/不老川流域川づくり市民の会/
砂川堀流域川づくり懇談会/柳瀬川流域ネットワーク/
黒目川流域川づくり懇談会/白子川流域の水環境を良くする会）
- ・お問い合わせ：新河岸川流域川づくり連絡会事務局



日本工営株式会社 総合防災室（担当：鎌田）
〒102-8539 東京都千代田区麹町5-4
TEL：03-3238-8257 FAX：03-3238-8254
E-mail: sogo-bosa@dxn-koeico.jp



■ 身近な水環境を調べよう！「第4回身近な水環境の全国一斉調査」参加のお願い

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと国土交通省・(財)河川環境管理財団が連携し、実施しています。本調査は統一した調査マニュアルと簡単な調査器材(事務局から無償で配布)を用い、全国で行います。結果を分かりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子がよく分かります。この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心がいつそう高まることも期待されます。

- ・日程：6月3日(日) 世界環境デー(環境の日)に近い日曜日
- ・測定項目：気温、水温、COD、その他
- ・測定方法：調査マニュアル、調査キットに基づき測定
(参加申込者に5月頃に配布予定)
- ・参加申込：本調査専用ホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)より「参加申込用紙」及び「河川以外の水域の調査実施、調査結果公表の了解に関する調査票」をダウンロードし、必要事項を記入してFAXまたはE-メールにてお申込下さい。
- ・応募締切：2月末日
- ・事務局：全国水環境マップ実行委員会
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F 財団法人河川環境管理財団内
TEL 03-5 847-8303 (担当: 矢野様) FAX 03-5 847-8309
E-mail: info@japan-mizumap.org
- ・お申込み：みずとみどり研究会気付
〒185-0023 東京都国分寺市南町3-23-2
TEL/FAX 042-32 7-3169
上記以外にも最寄の国土交通省河川事務所でも承ります

- 【第3回調査の実績】
 - ・参加団体数(個人参加者を含む)：944団体
 - ・調査地点数：4923地点
- 詳細な調査結果については、本調査専用ホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省河川局のホームページで公表されています。

事務局便り

川づくり連絡会に参加してみませんか？



川づくり連絡会の様子

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は右記事務局までお問い合わせください。
(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

■ 連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>
E-mail shingashi@ara.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
発行日 2007年(平成19年)1月17日



切り絵 毛利将範

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。寒い日が続いていますが、新河岸川流域では寒さに負けず様々な活動が行われています。今号では昨年11月と12月に行われた新河岸川流域の活動をレポートしています。また、イベントカレンダーには、昨年に引き続き開催が予定されている「第3回川でつながる発表会」のお知らせを掲載しています。皆さん、ぜひご参加ください。その他、今号も盛りだくさんの里川です。これからますます寒さが厳しくなっていきますが、今年も元気に頑張っていきましょう！

目次

- P 2 - 6 新河岸川流域の活動紹介
- P 7 新河岸川流域の活動紹介 行政からのお知らせ
- P 8 新河岸川流域情報

REPORT

新河岸川水系水環境連絡会 「新河岸川の現況調査」報告

日時：11月4日(土) 9:00 ~ 15:30
 スケジュール：
 9:30 集合(川越市「旭橋」右岸)
 10:30 スタート(川越市「旭橋」右岸)
 13:00 昼食休憩
 (富士見市「木染橋」右岸 / 新河岸川河川防災ステーション)
 15:00 ゴール(朝霞市「新盛橋」右岸)
 現況調査の内容：植生・鳥類の確認、水草採取、水深・水際・護岸・河床・排水口・流入口の確認
 主催：新河岸川水系水環境連絡会
 助成：(独)環境再生保全機構 地球環境基金

11月4日(土)に晩秋の心地の良い暖かさの中、新河岸川水系水環境連絡会主催による「新河岸川の現況調査」~川を下りながら~が開催されました。調査には、新河岸川流域のさまざまな市民活動団体の会員と埼玉県新河岸川総合治水事務所・朝霞県土整備事務所・埼玉県南部漁協の方々を含む総勢38名が参加しました。

参加者たちは、旭橋付近にてEボートを組み立てたのち、5艇のEボートに分かれて乗りながら、新河岸川流域の川マップ作成のために河岸、河床、水深、水質、植生、鳥類などを調査しました。調査は、新河岸川の川越市の旭橋を起点に、下流朝霞市新盛橋までの延長約15キロメートルの範囲にわたって行われました。

ボートの上から眺める新河岸川の景色は、普段、堤防や橋の上から眺めている景色と異なり、新しい発見がたくさんありました。

調査を通じて、「堤防の植生は、アレチウリ、セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサなどの外来種が多く生息している」、「カワセミ、カルガモ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴイサギなどを含め15種類の鳥が見られたことから、多様な生態系が形成されていると想像される」ことなどが分かりました。さらに、コウホネの群生や準絶滅危惧種に指定されているミクリなど8種類の水草を観察することができました。

また、護岸の形態を6パターン準備し、右岸・左岸の状況を把握しました。調査範囲の上流区間では、自然護岸が多く、下流部に行くにしたがってコンクリート護岸や蛇籠などが整備されていることが確認されました。

今回、調査を行った新河岸川の区間では多くの水門・樋門を見ることができました。川を下りながら、これらの場所を記録し、600枚程度の貴重な写真データを得ることができました。砂川堀の水門は歴史建造物として価値があるのではとの意見がありました。

約4時間にも及ぶ観察を終え、新盛橋まで辿り着いたころには、みんな心地の良い疲れと調査を終えた達成感でいっぱいでした。参加者からまたEボートに乗り、川下りをしたいとの感想がありました。

川下り終了後に、新盛橋にて採取した水の水質分析が行われ、「新河岸川の現況調査」は終了しました。調査結果は、黒目川秋の川まつりや2006年度身近な川の一斉調査報告会で報告されました。

当日配布されたMAP。新河岸川水系水環境連絡会作成。

調査に先立ち、みんなでEボートを組み立てました

参加者が調査の方法や目的についての説明を受けました

武蔵野線高架下。もうすぐゴール地点です

REPORT

志木まるごと博物館「河童のつづら」 第4回お宝交流シンポジウム 「川にかかわる自然と文化のまちづくり」



このシンポジウムは、NPO法人エコシティ志木と(財)埼玉県生態系保護協会 志木支部が運営する、志木まるごと博物館「河童のつづら」が地域のエコミュージアムとして定着し、循環型社会形成の一助となることを目指し、毎年開催されています。

今回は特に、志木市内に流れる3本の川(柳瀬川・新河岸川・荒川)にちなみ、「川にかかわる自然や文化を活かしたまちづくりとは?」、「どんなことができるのか?」を具体的に考えることを目的に、平成18年11月12日(日)に志木市いるは遊学館で開催されました。シンポジウムには22名の参加者があり、以下のとおり内容の濃いものとなりました。

基調講演 「川にかかわる自然と文化と流域経営」

講師: 恵 小百合 先生(江戸川大学社会学部 教授 / NPO法人荒川流域ネットワーク 代表理事)



はじめに、川の住所(リバーアドレス)という考え方のご紹介がありました。この考え方は、自分の住んでいる場所を川の視点で紹介するという方法です。ちなみに、志木市いるは遊学館の場合では、日本東京湾隅田川・新河岸川水系支流柳瀬川下流高橋と栄橋の間右岸という住所になるのでしょうか。

また、ミズガキ度チェックやアリの眼(土壌からの視点)・トリの眼(上空からの視点)・イルカの眼(水中からの視点)などの「環境を見る眼」や、源流から海までを視野に流域資源の循環を経済的なベースも含め再構築する「流域経営」、流域経営の観点での環境(エコロジー)も経済(エコノミー)も支えるという誇りを育てる「エコプライドの醸成」などの幅広い考え方を、「石西礁湖」や「木遣い文化運動」、「WEB-GISを使ったマップづくり」など具体的な事例を交えながら講演いただきました。

話題提供 ① 「志木の崖線ウォーク」

発表: 天田 眞 さん(志木まるごと博物館「河童のつづら」館長)



志木市は、荒川と新河岸川の間低地に位置した旧宗岡村と新河岸川と柳瀬川の合流点付近の武蔵野台地に位置した旧志木町との合併により誕生しました。志木地区の自然と文化のお宝の多くは台地の縁の崖線近くに集中しています。これらの崖線を「朝霞との境界の谷津地に面した崖線」、「新河岸川に面した崖線」、「市場坂上交差点付近」、「柳瀬川に面した崖線」の順に、お宝写真を観ながら解説していただきました。

話題提供 ② 「志木の野火止用水」

発表: 今野 美香 さん(志木市生涯学習課 文化財担当)



野火止用水は、川越藩主松平伊豆守信綱が玉川上水開削の功により幕府から許可され、玉川上水から分水されたもので、玉川上水の33分水の中で、最古(承応四年<1655年>)、最大(分水口の大きさが六尺×二尺)、最長(多摩郡小川村<東京都小平市>から新座郡引又村<埼玉県志木市>まで総延長約20km)の用水路だったそうです。志木には分水を含め3本が流入し、一部は更に枝分かれし、生活用水や農業用水に使われていたようですが、飲料水は主に井戸水を使用していたそうです。また、このあたりは宿場町・市場町・河岸場としても栄えていたため、野火止用水には「河岸の水車」・「中の水車」・「上の水車」と三つの水車があり、産業用水としての一躍も担っていたそうです。

しかし、都市化が進むにつれ、交通緩和や商店街の必要に迫られ整備のため昭和40年<1965年>には暗渠化されてしまいました。また他に、ご紹介いただいた以下の管理方法などについても、現在に役立つものばかりで、とても参考になりました。

- ・「諸国山川掇」寛文六年<1666年>:
草木の根堀禁止、上流の山稜の植林奨励、焼畑農業の禁止、河川敷の開発の禁止
- ・野火止用水の流路の維持管理:
組合(野火止・西堀・菅沢・北野・宮戸・館・引又・上宗岡・中宗岡・下宗岡)
大正末期から昭和初期頃の川ざらえ
旧盆の8月15・16日に流れをせき止めて底の泥を掻き上げる。宗岡村や志木地区周辺の人々が、シャベルや鎌などの作業用具をかついで、約10kmほど離れた新座市西堀地区まで来て川ざらえを行った。
- ・野火止用水「平林寺堀の禁制」
殺生の禁止、不浄・洗濯の禁止、古草履・塵芥の投棄の禁止

話題提供 ③ 「河童のつづらの未来像と志木」

発表: 毛利 将範 さん(NPO法人エコシティ志木 副代表理事)



志木市の現況とその地域をエコミュージアムとして活用していくため、「川によって育まれた、身近な自然と文化財(お宝)をまちづくりに活かす」、「これらお宝を楽しみながら学びあい、地域社会の持続的な発展へ貢献」、「環境文化(自然・文化環境を維持、存続するための規範)の創造」などの未来像が語られました。

パネルディスカッション

基調講演の恵先生と話題提供者の3名によるパネルディスカッションでは、今後の展望についての他、参加者の意見を交えながら林業問題・ダム問題・水質問題・海洋問題など多岐に渡る議論が行われました。



パネルディスカッションの様子

写真・パネル展示

また、会場入口付近には、(財)埼玉県生態系保護協会志木支部長の山崎さんの提供による、志木市周辺で観られる野鳥や野草の写真が飾られ、参加者の眼を和ませていました。



山崎さん提供の写真展示

「志木市の地形図」(志木市『志木市郷土誌』1978より、毛利氏作図) 「荒川下流域の地形区分図」(貝塚爽平『東京の自然史7』より、毛利氏作図)

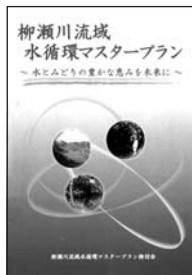
REPORT

柳瀬川水循環マスタープラン 第3回市民懇談会が開催されました

当日のプログラム

- 日時：11月21日(火)
場所：志木市民会館パルシエティ
内容：
- 19:00 開会の挨拶
 - 19:10 市民ができることの事例紹介
 - 19:15 柳瀬川流域水循環市民プロジェクト(案)
 - 19:20 市民ができること
 - 20:35 各ブロックの意見、交換総括
 - 20:55 その他、今後の予定、総括等
 - 21:00 閉会

柳瀬川流域水循環マスタープランとは



2005年3月に柳瀬川流域水循環マスタープランが策定されました。同マスタープランは、水に係わる総合的な整備・保全・管理を目指すために、河川環境のみならず、都市環境などの地域特性を踏まえた水循環系の健全化に関する総合計画です。水循環マスタープランは、流域の抱える水の諸問題を解決し、より健全な水循環像を創出することで「望ましい流域像」を実現していくことを目的としています。現在、この実行計画(アクションプラン)の調査・検討が行われおり、市民懇談会では、市民各自が取り組めるものや市民と行政が連携して取り組むべきものについての提案がされています。

市民ができることの事例紹介

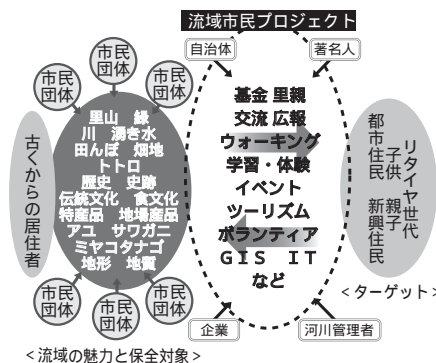
柳瀬川流域水循環マスタープラン事務局の(社)雨水貯留浸透技術協会佐々木成人氏より、新河岸川流域においてこれまで市民団体によって実施されてきた活動の紹介がありました。また、横浜市の和泉川流域で実践されている雨水浸透ますの普及のためのPRについても紹介がありました。

柳瀬川流域水循環市民プロジェクト(案)

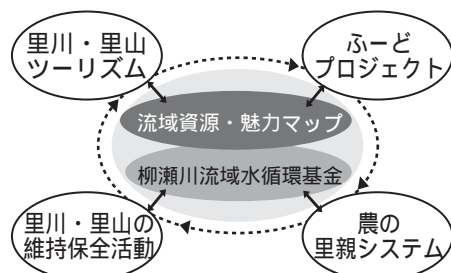
柳瀬川流域水循環マスタープラン検討委員で柳瀬川流域ネットワークの世話人である宮本善和氏より、柳瀬川流域水循環市民プロジェクト(案)についての紹介がありました。

柳瀬川流域水循環市民プロジェクトは、柳瀬川流域水循環マスタープランを推進していくにあたり、行政の諸施策とともに、流域市民や企業などが連携・協働して具体的な取り組みを実行するものです。柳瀬川流域の里山、里川のファンを増やし、流域の緑地、農地、川を守り育む輪を広げていくプロジェクトが提案されました。

【柳瀬川水循環市民プロジェクトの方向性】



【柳瀬川水循環市民プロジェクトの展開】



各ブロックの意見交換と総括



意見交換の様子

出席した市民の皆様が柳瀬川下流、柳瀬川上流、東川及び空堀川の4つのブロックに別れ「市民ができること」について意見交換し、それぞれのブロックによる総括の発表がありました。

柳瀬川下流ブロック

今後、具体的に私たちが一人でもできること、そして隣のお宅にもできるようなこと、あるいは集合住宅で取り組めるような課題とは何かについて議論を進めていきたい。

柳瀬川上流ブロック

湧水や緑、動物等について市民が調査した結果(情報)を共有化することで、川や緑地に対する「気付き」が活発化し、「緑を守る」ことに対する意識が高揚すると考える。

東川ブロック

大人は川に対して「ウサギ追いかの山、小ブナ釣りしかの川」という印象を持っているが、子どもは「ドブ川」という印象を持って育っている。この状況を少しでも改善するため、「夢を育てる」ということを提案する。

空堀川ブロック

保全地域等の指定がされていない民有林や畑が多く残されている現状があるなかで、市民ができることとして、モデル地区周辺の貴重な緑を開発から守っていききたい。

全体総括



全体総括 (芝浦工業大学・松下教授)

会の最後に、市民懇談会のアドバイザーである芝浦工業大学の松下教授から本市民懇談会に対する期待が述べられました。

1. 皆様の意見が柳瀬川流域の姿を変えて行くプロセスに期待したい
2. 柳瀬川流域の環境が守られ、人々が住みたくなる地域のモデルになることを期待したい
3. アジアなどの諸外国が同様の環境となった時、他国の環境改善に寄与する取り組みとなることを期待したい

REPORT

「第3回 身近な水環境の全国一斉調査」 報告会 & お宝マップづくり

11月26日(日)に朝霞市リサイクルプラザで実施された「第3回身近な水環境の全国一斉調査」報告会 & お宝マップづくり(主催:新河岸川水系水環境連絡会)の様子を報告します。「第3回身近な水環境の全国一斉調査」は、全国では3年目、新河岸川流域では11年目を迎え、さまざまな川で活動が広がってきました。次回の「第4回身近な水環境の全国一斉調査」は2007年6月3日に実施が予定されています(詳細は本号のイベントカレンダーに掲載しています)。皆様の参加をお待ちしています。

第1部 発表会 10:00~12:00

午前に行われた第1部は、「伝え・つなげる」をテーマに、今年度実施された「身近な川の一斉調査」の報告をはじめとして、新河岸川流域で実施された活動について紹介がありました。

志木まるごと博物館「河童のつづら」【NPO法人エコシティ志木】



水にかかわる自然と文化を伝える「志木まるごと博物館「河童のつづら」」について発足の経緯や活動内容を発表。本活動は、「第2回川の日ワークショップ関東大会」で準グランプリを受賞。

砂久保橋の大工ノキを守った【不老川流域川づくり市民の会】



不老川に架る砂久保橋の架け替えにより撤去の危機にあった大工ノキと石橋供養塔について、多角的な検討結果から市民側の代替案を提示することにより、その存在を守った経緯について発表。

金山調整池の清掃【清瀬第八小学校エコネット委員会】



エコネット委員会発足の経緯と活動概要についての紹介後、清瀬第八小学校の生徒さんから、サタデースクール・エコネット課外授業で実施した金山調整池の清掃活動及び柳瀬川の「生きものと水」の観察会の模様について発表。

身近な川の一斉調査報告 新河岸川水系について【宗岡中学校】



pH、EC、CODなどの一斉調査のデータから、水質についての考察結果の発表や夏休みの自由研究結果である細密画を紹介。科学部員による「植物の成長と庭のpH」の関係についての自由研究は科学展朝霞支部より優良賞を受賞。

身近な川の一斉調査報告 新河岸川水系について【明法中学校】



一斉調査のデータ整理結果や独自に実施している週間水質調査の結果及び測定ミスの検証について発表。続いてゴミ拾いの活動の結果と今後の活動方針について発表。

紙芝居「鮎の一生」【新河岸川水系水環境連絡会】



アユ生存の危機を紙芝居形式でクイズを交えながら発表
問題:アユの餌は何でしょう?
さかな いしについたぬるぬる(藻) むし
答え: いしについたぬるぬる(藻)

身近な川の一斉調査報告 新河岸川水系について【新河岸川水系水環境連絡会】



バックテストによる計測誤差の分析結果と分析に基づいた今後の測定方針を提案。さらに、一斉調査の結果を統計処理することで、これまで蓄積されたデータの活用方法を提案。

身近な川の一斉調査報告 新河岸川水系について【全国水環境マップ実行委員会】



第3回目にあたる今回の全国一斉調査の実績(参加団体944、調査地点数4,923地点)や一斉調査結果の整理事例(新河岸川水系、多摩川水系の浅川、四万十川)などを紹介

第2部 新河岸川本川の現況調査の概要報告

10:00~12:00



概要報告の様子

午後から行われた第2部では、新河岸川本川の現況調査の概要報告が行われました。この現況調査は、11月4日(土)にEポートを用いて行ったもので、普段は見られない川からの沿川の状況に、皆興味深く報告を聞いていました。

第3部 お宝マップづくり 13:30~16:00

新河岸川の川くだりの発表後、約2時間半にわたりお宝マップづくりが行われました。約20名の方が3つのグループに分かれて新河岸川流域内の自然環境、歴史、文化などの資源を抽出し、最後は全員で最終選考を行いました。



どんなお宝マップができるかな?



お宝抽出作業の様子



新河岸川流域のお宝はこれだ!

REPORT

平成18年度 第2回「新河岸川流域川づくり懇談会」

～ 市民（団体）、行政との“交流・情報交換の場”としましょう～

「新河岸川流域川づくり懇談会」の目的

- “ 河川整備計画に基づき、市民等との連携、協働を図る ”
- ・ 市民、市民団体がもつ情報、行政が持つ情報交換の場に
- ・ 市民、市民団体とのコミュニケーションの場に
- ・ 川づくりのよりよい方向、方法について話し合う場に

懇談会の内容

- 県からの情報提供
(平成18年度事業経過報告、平成19年度箇所紹介)
- 「新河岸川の現況調査」の報告
- その他(排水機場の有効利用の提案など)



第2回「新河岸川流域川づくり懇談会」の様子

12月10日(日)の午後2時から、約2時間半にわたり川越県土整備事務所で平成18年度 第2回「新河岸川流域川づくり懇談会」が開催され、埼玉県新河岸川総合治水事務所の清水部長より挨拶がありました。また、県からの情報提供として平成18年度事業の進捗および平成19年度事業予定の実施箇所や事業概要について報告されました。



清水部長

本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。6月に第1回目が開催され、今回で2回目となる「新河岸川流域川づくり懇談会」です。限られた時間ではありますが、市民と行政と一緒に川づくりを考える機会としてできるだけ情報交換を行いたいと思います。

「新河岸川の現況調査」の報告



新河岸川水系水環境連絡会の菅谷代表
本調査の結果を取りまとめ、有効に活用していきたい。

新河岸川水系水環境連絡会の菅谷代表より、11月4日(土)に実施した新河岸川の現況調査の概要について報告がありました。現況調査は、新河岸川の旭橋から新盛橋までの間をEポート5艇で川をくだり、河川からみた川の現況や水質などについて行いました。「調査区間には、古い水門や樋門も多くみられ、人々が昔から新河岸川に深いかわりがあったことが伺えること、水草の種類が多かったこと、他の都市河川と比べ植生が豊かなことなどが印象的」とのことでした。

その他

【排水機場の有効利用の提案】

九十川排水機場の有効利用についてフリーディスカッションがおこなわれました。市民団体からは、屋上緑化や普段利用されていない部屋の一般開放などの提案がありました。重要施設であることから、一定の制約はあるものの、引き続き意見・要望などを受けながら有効利用方を検討していくとのことでした。

九十川排水機場は、平成10年8月の台風4号の影響による大雨で、新河岸川と九十川が越水し3,27戸の家屋が床上・床下浸水にみまわれた経緯を受け、新河岸川と九十川の合流点に整備された施設です。

【今後の懇談会のあり方について】

会の最後に、今後の懇談会のあり方について市民団体から問題提起がありました。「新河岸川流域川づくり懇談会」は、流域全体の河川整備について、市民と行政がお互いの信頼関係のもと情報を交換する場です。こうした情報に基づき、各流域の河川整備現場毎で整備について話し合い、整備方針案を合意形成して河川整備を進められているのが現状です。

しかし、一部の現場で整備案の合意形成がなされた後、地先で状況変化が生じた際に調整時間が無いとはいえ、これまで話し合いをしてきた内容を市民抜きで現場行政の独自判断により整備案を変更し、工事が進められた事例が報告されました。こうしたことがこれからも起こるようなことがあれば、市民と行政の信頼関係を維持して行くことが難しいとの指摘がありました。

現場担当の行政側からは、対応に不備があったことについて遺憾の意を示すとともに、時間をかけて信頼関係を構築しながら、市民と行政が協働した望ましい河川整備の方向性の模索を続けていきたい旨の説明がありました。

* 黒目川・秋の川まつり 2006

～ 1日 川の広場 ～ * * * * *

日時：11月12日(日) 11:00～14:00
 場所：埼玉県朝霞県土事務所「駐車場」(朝霞市)
 主な内容：黒目川わくわくウォーキングと水辺ウォッチング、黒目川水族館、水質調査体験、伝統とあみ漁労体験、新河岸川流域市民活動のパネル展示、新河岸川流域河川事業等のパネル展示、有機肥料の無料配布、軽音楽演奏、こどもSOS PRコーナー、こども工作コーナー
 主催：埼玉県朝霞県土整備事務所
 共催：埼玉県新河岸川総合治水事務所
 協力：朝霞市、(社)埼玉建設業協会朝霞支部、(財)埼玉県生態系保護協会朝霞支部、埼玉南部漁業協同組合、新河岸川水系水環境連絡会、黒目川に親しむ会、和光自然環境を守る会、NPO法人エコシティ志木、東久留米ホテルを呼び戻す会、みずとみどり研究会、朝霞環境市民会議、東洋大学軽音楽部サニー、ザ・ヒートニック、瀬田おやしバンド

「黒目川・秋の川まつり 2006 ～1日川の広場～」が開催されました。風の強い日でしたが、新河岸川流域の川づくり市民団体の方々を中心に大勢の参加者が集まりました。はじめに、朝霞県土整備事務所岩崎所長、神谷県議会議員および新河岸川水系水環境連絡会菅谷代表より、開催にあたっての挨拶があり、県南地域における財産である河川空間を憩い、遊ぶ、学ぶに活用し、地域と連携し、一体となった川づくりを行っていききたい、また、黒目川を通して地域のふるさと作りをしていききたいとのお話がありました。その後、黒目川わくわくウォーキングと水辺ウォッチングが行われました。黒目川堤防の上を歩きながら、黒目川の歴史や



黒目川わくわくウォーキングと水辺ウォッチング。黒目川の整備状況について説明を受けました



たくさんの魚をみるのができました

【今日の黒目川】
魚：12種
ボラ、アブラハヤ、ギンブナ、ドジョウ、ヌマチチブ、ウキゴリ、スミウキゴリ、タモロコ、メダカ、モツゴ、マハゼ、テナガエビ



上 伝統とあみ漁労体験。投網のやり方を教わりました
左 黒目川水族館。魚の特徴について説明を受けました



新河岸川流域の市民団体の活動報告

整備状況・経緯について朝霞県土整備事務所と新河岸川総合治水事務所の担当者より説明を受けました。黒目川の河川改修は、桜並木をはじめ多くの自然環境に配慮し、地域の市民や学識経験者と意見交換を行いながら実施されたそうです。また、今年度には暫定改修工事が完了するとの報告がありました。朝霞県土整備事務所内では、落合川や黒目川最源流部のさいち窪の写真や狭山丘陵のジオラマが展示されていました。また、事務所の入口では、新河岸川流域で活動をしている市民団体の活動が報告され、多くの参加者が興味深く立ち止まっていました。そのほか、広場では水質調査や伝統とあみ漁労の体験など見るだけでなく、自分たちで体験できるコーナーもありました。こども達が特に喜んでいたので、こども工作コーナーでの「しおり」や「キーホルダー」作り、そして黒目川水族館。バンド演奏が流れるなかでたくさんの魚たちを見つめるこどもの姿が印象的でした。最後に、川まつりで演奏をした3つのバンドの合同による特別セッションで盛り上がり、黒目川・秋の川まつり2006は終了しました。来年の春の川まつりが今から待ち遠しいです。



バンドの演奏。世代を超えたすばらしいセッションを聞くことができました

国土交通省からのお知らせ

荒川知水資料館(amoa)からのお知らせ

荒川知水資料館(amoa)では荒川に触れることができる機会として年間を通じて様々な催事を開催しています。

◆ アモアワークショップ「流木ネイチャークラフトに挑戦！」

面白い形の流木を上手に組み合わせ、自分だけのオリジナルな一品が作れます。会場でお友達をつくるのもいいですね。

- ・ 日時：2月10日(土) 10:00～15:00
- ・ 場所：荒川知水資料館(アモア)、荒川河川敷
- ・ 講師：長野修平氏(ネイチャークラフト作家)
- ・ 内容：荒川の河川敷から流木や野草、木の葉、鳥の羽など、さまざまな自然の素材を自分たちで集め、オリジナルのフォトフレーム、モビール、ハンガーなどを作り上げます。
- ・ 対象：小学校3年生以上(小学3・4年生は保護者同伴)
- ・ 募集人数：40名(先着順)
- ・ 費用：無料
- ・ 持ち物：昼食、飲料水、エプロン、軍手、紙袋(作品持ち帰り用)
- ・ 申込み：はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、ワークショップ名と参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。



【受付開始】1月20日(土)

問合せ先

〒115-0042
 東京都北区志茂5-41-1
 荒川知水資料館 ワークショップ事務局
 【TEL】03-3598-2134
 【メール】am oa-w s@ ara go.jp
 【受付時間】10:00～16:00(月曜休館)
 (月曜が祝日の場合は火曜休館)
 2006年12月29日～2007年1月3日まで休館